

# 慶應義塾大学大学院 法学研究科

## 学位論文に係る評価基準

学位申請論文は、本研究科が規定する手続きに従って提出されたものを対象とし、以下に示す水準、審査体制、方法ならびに評価項目に沿って審査する。

### 1. 修士論文

#### ①学位論文が満たすべき水準

法学または政治学の専門的知見に基づき、現代社会の諸課題から独自の問いを適切に析出した上で、客観的かつ論理的な分析を通じて一貫した結論を導き出していること。先行研究の成果を十分に踏まえつつ、独自の視点から考察を加えることで、当該分野における学理の発展や社会課題の解決に寄与する内容を有していること。研究の遂行にあたっては、学術的妥当性と高い倫理性を保ち、研究成果を明確に記述できる表現力を備えていること。各専攻の目的（法学分野における論理的帰結の導出、または政治学分野における事象の捕捉・分析能力）に照らし、修士の学位を授与するに相応しい学術的価値が認められること。

#### ②審査委員の体制

論文審査は、本研究科委員会の議を経て設置される審査委員会によって執り行われ、主査1名および副査2名の計3名をもって組織する。主査は、当該学生の研究指導を担当する指導教授（本研究科教員）が務め、論文作成プロセスの管理および審査全体の円滑な進行を統括する。副査は、論文の研究主題に関連する研究領域を専門とする本研究科教員を充てることを原則とし、指導教授とは異なる学術的視点から、研究の妥当性と客観性を評価する。

#### ③審査の方法

学位論文の審査は、審査委員会による査読および面接を通じて行われる。主査・副査は、設定された評価項目に基づき、先行研究の踏襲と独自の論理的帰結の導出がなされているかを精査し、面接において提出者の専門的知見と研究遂行能力を直接確認する。その後、審査委員会の判定に基づき、本研究科委員会の議を経て、修士の学位授与を決定する。

#### ④評価項目

- ・現代社会あるいは歴史的事象に現れる諸課題を的確に捉え、自身の専門分野において独自の視点から明確な問いを設定している。
- ・資料や先行研究を客観的に精査し、それらに基づく論理的な考察を通じて、説得力のある帰結を導き出している。
- ・論文の構成が体系的であり、専門用語を正しく用いた上で、研究内容が明瞭かつ平明に記述されている。
- ・法学・政治学の専門的知見を深化させ、学問的または実践的な応用可能性を示すことで、当該分野の発展に寄与している。
- ・面接において、自らの論理を学術的観点から適正に弁論し、建設的な議論を遂行する能力が認められる。

## 2. 博士論文

### ①学位論文が満たすべき水準

当該研究分野における膨大な先行研究や基礎的研究を十分に咀嚼した上で、それらを独自の視点から再解釈・再定位する高度な専門的分析を示していること。明確な問題意識に基づき、独創性のある知見や新たな理論的枠組みを提示することで、学界の発展に寄与する顕著な研究成果を導き出していること。研究の遂行においては、高度な研究倫理と法令遵守の精神を体現し、専門家としての自立した研究活動を行う能力が証明されていること。学術的価値の極めて高い論文として、国内外の学界や社会に対して新たな知を提示できるプロフェッショナルに相応しい水準を満たしていること。

### ②審査委員の体制

論文審査は、本研究科委員会の議を経て設置される審査委員会によって執り行われ、主査1名および副査2名以上の計3名以上をもって組織する。主査は、本研究科委員（本研究科教授）が務め、当該分野における高度な学術的知見に基づき、学位論文が学界に寄与する十分な水準に達しているかを総括的に判断するとともに、審査プロセス全体の厳正な運営を担保する。副査は、論文の研究主題に関連する深い専門性を有する教授が務めることを原則とし、多角的かつ緻密な検証体制を構築する。なお、審査の客観性と国際的な通用性をより強固なものとするため、他研究科あるいは他大学の教員を副査として招聘することもある。これにより、既存の学問的枠組みを再解釈・再定位する独創的な研究成果に対し、広範かつ高度な専門的知見から公正な評価を下す体制を維持する。

### ③審査の方法

学位論文の提出後、まずは本研究科内において1か月間の縦覧に付され、その公示期間を経て本研究科委員会にて受理の是非が審議される。受理承認後、審査委員会は1年以内に厳正な査読を行い、専門的知見や独創性の観点から詳細な審査報告書を作成・提出する。最終的には、この報告書に基づき本研究科委員会において本研究科委員による投票を行い、合議による厳正な議決を経て、博士の学位授与を決定する。

### ④評価項目

- ・膨大な基礎的研究を十分に咀嚼した上で、既存の議論を独自の視点から再解釈・再定位する高度な分析能力を示している。
- ・従来の知見に新たな発見や視座を加え、学界の発展に明確に寄与する顕著な研究成果を備えている。
- ・極めて高い専門的知識に基づき、緻密な資料調査や厳格な方法論を用いて、自立した研究者として搖るぎない論証を行っている。
- ・高度な論理的整合性と洗練された表現力を備え、国内外の学界に発信するに値する学術的完成度を有している。
- ・当該分野のプロフェッショナルとして、専門的な批判に対しても学術的妥当性をもって応対できる能力が確認される。

以上